

大分教育事務所訪問 56

大分市立植田中学校から学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「夢や希望の実現に向け、未来をたくましく切り拓く生徒の育成」を達成するために、学校として育成を目指す資質・能力を「実践力」と定め、全ての教育活動において意識した取り組みを行っています。さらに、めざす生徒像においてもそれぞれ育成をめざす資質・能力を以下のように明確にすることで、「実践力」の具現化を図っています。

- 心豊かで、思いやりのある生徒（人間関係形成力）
- 自分の考えを持ち、しっかり発表できる生徒（自己表現できる力）
- 夢や希望に向かって最後まで努力できる生徒（意欲的に取り組む力）

このように、育成を目指す資質・能力を明確にすることで、それぞれの取り組みが「何のために行うのか」という共通理解が図られます。そして、どのような力をつけるかという上位目標が定まると、その手段（方法）は担当者に任せることが出来ますね。担当者の当事者意識が高いことは、3年生の学習相談のチラシからわかりました。今後は、保護者や地域にも「資質・能力」の共通理解を図ることで、協働的な取り組みがより推進されると思います。

授業から学ぶ

2年生数学は全ての生徒が学びに向かっており、また、学び合いが日常的に行われていると感じました。3年生理科は周りに流されることなく自分の考えをタブレットに表すことができ、1年生国語もマッピングで書いた内容をタブレットにまとめていました。このように、自分の考えを発信できるのは、日常的にICT機器を道具として活用しているだけでなく、自分の考えを肯定的に受け止めてくれる仲間がいるからでしょう。



NO.264 2021年9月 植田中学校

わかる、できる

考えてもわからない時は、自分で調べるか、友達の考えを参考にしない。教室でタブレットを使うのはそのためですね。



NO.263 2021年9月 植田中学校

自信をもって

自分の思いや考えを自信をもって表現できるのは、肯定的に聴いてくれる友達がいるから。



NO.262 2021年9月 植田中学校

仲間と協働

困った時にわかるまで教えてくれる友達がいる。そんな教室を私たちがつくる。



NO.265 2021年9月 植田中学校

まずは自分で

交流をするためには、まずは自分で考える。うまくまとめられなくてもいい。この後に、皆で学び合うから

今後は、指導案の「振り返り」において、生徒がどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして明記されてみてはいかがでしょうか。

そのことで、本時の「ねらい」との連動や評価規準がより明確になることで、教科等が何であれ授業の検証がやりやすくなり、授業力の向上が推進されると思います。